

インタラクシオンデザイン 第2回 インタビューの技術(1) 記者, スター, やじうま  
宮城大学事業構想学部デザイン情報学科  
2006.10.10

目標:

インタビューの実技を通して、もっともシンプルでありつつ困難な「対話＝インタラクシオン」を体験すること。「記者」、「スター」、「やじうま」の三役をそれぞれ行うことで、インタビューのありようを多面的にとらえること。インタビューの成否を方法論的に評価してみる。

- 「記者」は「スター」から必要な情報を引き出しつつ、その発話の背後にある思想を探りだして文章に表現する。
- 「やじうま」は、内容以上に対話のトーンの変化に注目してインタビューの進行を注視する。できあがったインタビューの記事と、実際の対話の進行との関係を考える。
- 「スター」は、自分で話したと思っていた話の内容と、「記者」が書いた記事とのギャップを認識する。「やじうま」のメモも参照する。

進行:

0. 何か「お気に入り」を持って集まる。

1. 3人一組になる。来週もこの組で行う。

「記者」、「スター」、「やじうま」に分かれる。

2. インタビュー開始。15分。

- 「記者」は、「スター」の「お気に入り」について「5W2H」をもれなく聞き出すこと。  
what, why, when, who, where, how and how much ?
- それを「お気に入り」としている「スター」の人柄等の印象もあわせてメモしておく。
- 「やじうま」は、内容以上に対話のトーンの変化に注目してメモをとる。

3. メモまとめタイム5分。

4. ポジションチェンジ。

- 「記者」は「スター」に、「スター」は「やじうま」に。「やじうま」は「記者」に。

5. 2-4を2回くりかえし、各自が3つのポジションすべてを経験する。

次回までの宿題:

「記者」として、インタビュー記事をまとめてくる。

- タイトル、リード、小見出しをふくめて本文2000-2400字程度。

- 写真もあるとなおよい。

- 自分のグループの「記者」、「スター」、「やじうま」それぞれの、役割、学籍番号、氏名。

- 以上をA4一枚に美しくレイアウトし、プリントを4部持参。

次回:

持ち寄った記事を交換して共有。「スター」として、自分について書かれた記事をチェック。

自分自身のイメージと、「記者」が感じて書いた内容とのズレに注目してみる。

「やじうま」のメモをあわせて参考にする。

3人で感想を共有。インタビューの難しさについて討議して、各グループで「インタビュー心得三箇条」をまとめる。

クラス全体で「三箇条」を発表して共有。

インタビュー記事と三箇条を提出。

以上。

※当初は「スター」「記者」「やじうま」はそれぞれ「インタビュア」「インタビュイ」「観察者」とよんでいたが、その役割をイメージしやすくするために呼称を改めた。